

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

日本の海洋工学に関する博物館について(その3):
関東地方

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 庄司, 邦昭 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/592

日本の海事工学に関する博物館について(その3)

— 関東地方 —

庄 司 邦 昭

ON THE MUSEUMS ON MARINE ENGINEERING IN JAPAN (PART 3)

— KANTO —

Kuniaki Shoji

Abstract

It is important issue to research on the museums by collecting data about marine engineering. Author researched data of foreign countries from 1989 to 1996 and those were already reported. In Japan he has already reported on the museums in Hokkaido and Tohoku area. In this paper author shows the collected result of the museums which concern marine engineering in Kanto district in Japan.

1. 緒言

世界各地に保存されている船舶関係資料について実態を調査することは、海事工学の発展にとって重要なことであると考えられる。

著者は以前に1989年から1996年にわたり、諸外国における調査結果を文献調査と現地調査によって纏めてきた¹⁻⁷⁾。さらに本年、ヨーロッパの船の博物館については完全とはいえないが集大成することができた⁸⁾。また一昨年から日本における船舶関係資料について調査を始めた^{9,10)}。本報告は日本における船舶関係資料調査の第3報として、関東地方における海事資料について調査したので以下に報告する。

2. 現地調査結果

2. 1 茨城県

(1) 大洗海洋博物館(茨城県大洗町)

大洗海洋博物館は大洗磯前神社の鎮座1100年を記念して氏子、茨城県、茨城大学生物学教室などの協力によって1959年(昭和34年)8月に設立された社会教育施設である。1960年3月には博物館法により文部省指定となった。

建物は延べ面積260m²の木造モルタル塗り平屋建てで一部は鉄骨4階建てになっている。海拔40mの屋上展望塔からは眼下に太平洋を望むことができる。

展示内容としては海洋、水産業、水産生物に関する資料が収められているが、船舶関係としてはカツオマグロ漁船、起重機船、ホテルバージなどの模型がある。海が穏やかなときに岩礁に生えたヒジキなどを採集した大洗独特のたらい舟もみられる。そのほか海洋調査資料として転倒水温計、転倒採水器、透明度板、測鉛なども興味深い。

〈データ〉

名 称：大洗海洋博物館

英 名：Oarai Marine Museum

住 所：〒311-13 東茨城郡大洗町磯浜6890

電 話：0292-66-1444

交 通：常磐線水戸駅下車，海のこどもの国行バス35分，大洗神社前下車徒歩5分

所 属：大洗磯前神社

開館年月：1959年(昭和34年)8月

入館時間：8：00～17：00(4月～9月)，8：30～16：30(10月～3月)

休 館 日：水曜日，12月31日

入 館 料：大人250円，小人150円

写真撮影：可

出 版 物：無料パンフレット

展 示：○たらい舟

海が穏やかなときに男の人が一人で乗って岩礁に生えたヒジキやコトジツノマタを採集するときに使った大洗独特の舟。弾力性があり岩にぶつかってもこわれぬ。1978年(昭和53年)小沼栄治氏寄贈。

○第一新晃丸(1/10模型)

木造鰹鮪漁船，総トン数143GT，長さ28m，幅5.85m，深さ3m

建造(船体：新晃造船株式会社，帆装：柳澤帆店，電気：川上電気店)

○MODEC250(1/100模型)

起重機船，長さ80m，幅23m，深さ5m，三井海洋開発

○おやしお(模型)

ホテルバージ，全長53m，幅18m，179名収容

○DIVER BOAT(模型)

三井海洋開発

○磁気羅針儀

中央計器製作所1951年(昭和26年)6月製造

[1991年11月4日現在]



写真1 大洗海洋博物館



写真2 たらい舟

(2) 境町歴史民俗資料館(茨城県境町)

総合運動施設や公民館がつけられた境町文化村と呼ばれる一隅に、敷地面積970.28m²、床面積673.90m²の境町歴史民俗資料館が造られた。ここでは失われつつある資料を猿島茶、利根川の水運、河岸関係を中心に収集、保存し公開することに努めている。

利根川の舟運に関する資料として、高瀬舟の模型、高瀬舟の飾蓆(かざりむしろ)、高瀬舟の錨や滑車などが展示されている。

〈データ〉

名 称：境町歴史民俗資料館

英 名：Sakai-machi Historical Folklore Museum

住 所：〒306-04 猿島郡境町大字西泉田1326-1

電 話：0280-87-8551

交 通：東北本線古河駅より東武バス40分、境町車庫終点下車、徒歩20分

所 属：境町

開館年月：1979年11月3日

入館時間：9：00～16：00

休 館 日：第1，3月曜日(祝日の場合は翌日)，第2，4，5日曜日，12月28日～1月4日

入 館 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：境町歴史民俗資料館入館案内(無料パンフレット)

展 示：○高瀬舟の模型(宮本町，大塚広次郎氏製作)

○高瀬舟の飾蓆(かざりむしろ)

明治末期，桜井栄二郎氏の香取丸の船首を飾った藁を拵って編んだむしろの船じるし

○高瀬舟の錨(宮本町，大塚初太郎氏寄贈)

○高瀬舟の滑車(三和町，中里元四郎氏寄贈)

○高瀬舟の航海灯(宮本町，大塚初太郎氏寄贈)

[1991年2月3日(日)現在]



写真3 境町歴史民俗資料館

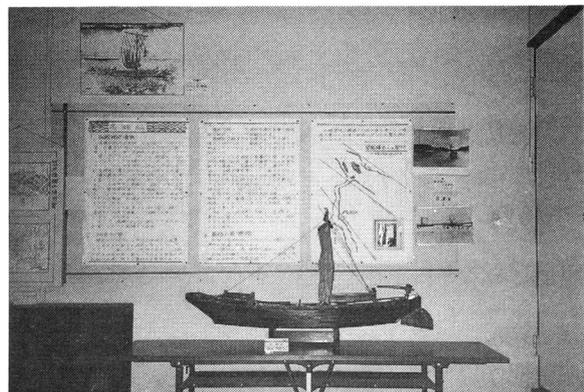


写真4 高瀬舟の模型

(3) 出島村郷土資料館(茨城県出島村)

城郭様式に建造された資料館では、1階が「水とみどりのドラマ」、2階が「郷土の暮らし」、3階が「郷土のあゆみ」についての展示になっている。

1階には霞ヶ浦漁業のシンボル、帆引き舟の2/3縮尺模型が展示されている。模型とはいえ、長さ約6m、幅約1m、帆柱の高さ約5.5mの大きさである。帆柱、帆桁、出し棒は孟宗竹で作られ、帆は実物が木綿で作られているのに対して、この模型ではFRP製である。舟体の製作に約5ヵ月を要している。帆引き舟としての特別な船形があるわけではなく、館外に展示されているチョキ舟などが用いられていたようである。

展示室内は写真撮影、飲食、喫煙が禁止になっている。写真撮影禁止とスリッパに履き替える方式には再考を願いたい。パンフレットが日本語の説明に併記して英語でも書かれているのは靴を脱ぐことなどとてもないと考える西洋人に対して大変親切なことである。

〈データ〉

名 称：出島村郷土資料館

英 名：Hometown Museum of Dejima Village

住 所：〒300-02 茨城県新治郡出島村大字坂1029番地

電 話：0298-96-0017

交 通：国鉄常磐線土浦駅より関東鉄道バス牛渡廻り田伏行きにて「志戸崎」下車、徒歩5分

所 属：出島村

開館年月：1987年(昭和62年)4月

入館時間：9:00~16:30

休 館 日：月曜日(祝日のときは翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)

入 館 料：大人200円、小中学生100円

写真撮影：不可

出 版 物：出島村郷土資料館パンフレット

展 示：《館内》

○帆引き舟(2/3模型)

菅沢武治氏製作

○かじ(コード長30cm, スパン長70cm)

○かい

○いかり(2つづめ, 幅90cm)

○いかり(4つづめ, 幅70cm, 高さ90cm)

○帆引き舟を作る道具

つばノミ, ポートギリ, カガリ(縦挽き), スリ合わせノコ, 突込みノコ, マキハダぶち, 自由カネ(曲尺), ならし, 地カンナ, 反台カンナ, 丸カンナ, 寄せカスガイ, 釘

○田舟(深田で苗や刈った稲束や肥料を運んだ)

《館外》

○ミヨシ舟

全幅1.55m, 深さ0.6m。へさきに波切りをよくするために「ミヨシ」がついているのでこの名がついている。「チョキ舟」のこと。帆引き漁に使われた。



写真5 出島村郷土資料館



写真6 サップパ舟(左)とミヨシ舟(右)

○サップパ舟

笹舟のこと。船底が平らでへさが尖っていないため、速度は出ないが安定している。沖合い漁業よりは岸近くの漁に向いている舟。

参考文献：○全国美術館会議編：全国美術館ガイド，p.72，美術出版社(1992年1月10日発行)

[1992年5月4日(月)現在]

2. 2 千葉県

(4) 銚子市青少年文化会館(千葉県銚子市)

銚子青少年文化会館は青少年の健全な育成と市民の文化生活向上の拠点として、1971年9月に開館した。この建物は市民会館と青年の家と児童文化センターの三部門からなる複合施設である。隣りには体育館や野球場がある。

一階の郷土資料室には「ふるさとの遺産」、「明治の教育」、「銚子に住んだ古代人の生活」、「幕艦『美加保丸』」、「江戸時代の町人の生活」、「思い出のハチロク」、「期間展示」のコーナーが設けられている。このなかに船の展示として、漁船、利根川高瀬舟、『美加保丸』に関するものがある。

『美加保丸』は800総トン、長さ52.2m、幅9.9mの3本マストバーク型木造帆船である。原名は『ブランデンブルク』といい、プロシアで建造された。1865年8月(慶応元年6月)、長崎において3万5千ドルで購入された。1868年10月(慶応4年8月)、榎本武揚の率いる艦隊として品川沖を出港するが、銚子で座礁し沈没した。

木製の外板を保護するための真鍮版はまだその当時の新製品であったことやプロシアがイギリスの造船所に発注して建造したことなど『美加保丸』の展示は造船史からみても興味深い。

〈データ〉

名 称：銚子市青少年文化会館

英 名：—————

住 所：〒228 銚子市前宿町1046

電 話：0479-22-3315

交 通：総武本線銚子駅からバス長崎行きで気象台下下車徒歩2分

所 属：銚子市

開館年月：1971年9月

入館時間：9：00～17：00

休 館 日：月曜日、祝日(子供の日と文化の日は開館)



写真7 銚子青少年文化会館



写真8 二丁櫓の和船

入館料：無料

写真撮影：可

出版物：—————

展 示：○二丁櫓の和船1962年頃建造，長さ5.5m。木造，延縄漁業用。茨城県鹿島の漁民が使っていた。

○高瀬船模型(1/20)

○高瀬船設計板図面 1923年(大正12年)に製作された高瀬船の設計図。長さ2m，幅30cm(縮尺1/10)の原図板。宮内権兵衛市寄贈。

○高瀬船羅針儀 大正から昭和初期にかけて使用。

○高瀬船の仕様書 1923年(大正12年)に製作した高瀬船の建造費は617円であったことが記録されている。

○明治時代の造船用具 当時の船大工道具として使われた鉋一式。田村喜平氏寄贈。

○焼玉エンジン模型外川機関士組合寄贈。

○『美加保丸』の船底包板用真鍮板 1832年(天保3年)に真鍮板の特許を得たイギリス人技術者マンツの刻印とプロシア皇帝ウィリアムの刻印とイギリスのウェールズの港町ラネスリーの刻印があり，これらの刻印からプロシアがイギリスの造船所に注文して建造させたことがわかる。

参考文献：○東京新聞出版局編：『首都圏の博物館』，東京新聞出版局，pp.282～283(1981年12月10日初版発行)

○考古学ライブラリー部編：『博物館・資料館案内Ⅰ—考古・歴史・民俗—』，ニューサイエンス社考古学ライブラリー7，pp.40～41(1984年1月20日再版発行)

○『東京の博物館』，東京都博物館協議会，p.364(1989年2月28日改訂増補版発行)

[1993年3月13日(土)現在]

(5)千葉県立大利根博物館(千葉県佐原市)

千葉県立大利根博物館は千葉県における県立地域博物館の第五番目として建設された。千葉県北東部の東下総地域の総合博物館を旨とすると同時に，利根川の自然と歴史，千葉県の農業などにも重点をおく博物館である。

エントランスホールと三つの展示室，さらに中庭と屋外の展示で構成されている。館内の展示は，“利根川のすがた”，“香取に象がいたころ”，“海に幸を求めて”，“炭化米は語る”，“勢力をのびした豪族たち”，“香取・鹿島の神”，“香取の武将・中世の文化”，“利根川は生きている”，“きりひらかれる香取の海”，“水郷の稲作”，“栄える利根川”，“利根川の漁具・漁法”というテーマにわけられている。

それらの中で，利根川高瀬船や通運丸の模型，多くの船で賑わう佐原河岸の昭和初期の復元模型などはいま最近まで重要な輸送路として使われていた利根川と江戸川のような舟を偲ぶのによい資料である。現在でも毎日200

隻もの貨物船が上下する隅田川と比べ、その衰退は著しい。高瀬船や通運丸に関する資料は、利根川を遡った境町や江戸川に入って野田市、流山市など、かつてこれらの船で賑わった町にも残されている。

これらの船の他に、水郷地方で使われていた船や農業、漁業に使用した船もある。実物の船が屋外に多数展示されていたが、二度目に訪れたときには裏の収納スペースに無残にも山積みされていた。

最初に訪れたときのパンフレットには写真撮影はお断りしておりますのでご協力くださいと書かれていたが、新しいパンフレットには書かれていないし、館内にも注意書きはされていなかった。ヨーロッパやアメリカの博物館では、三脚やフラッシュの使用については制限しているところもあるが、写真撮影については自由なのが普通である。日本の博物館ではまだまだ大切なものを見せてあげるといった考え方が強いので、写真撮影を制限しているところが多い。6年間でのこの変化は博物館の意識の変化を示すものとして大いに歓迎すべきことである。

〈データ〉

名 称：千葉県立大利根博物館

英 名：Chiba Prefectural Otone Museum

住 所：〒287 千葉県佐原市佐原ハの4500

電 話：0478-56-0101

F A X：0478-56-1456

交 通：国鉄成田線、佐原駅から日本水郷観光バス与田浦経由潮来行水生植物園入口下車約600m
国鉄鹿島線十二橋駅から約3km、潮来駅から約3.5km

所 属：千葉県

開館年月：1979年11月(昭和54年)

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：月曜日(祝日のときは翌日)、12月26日～1月4日

入 館 料：無料(特別展開催中は有料)

写真撮影：可

出 版 物：○千葉県立大利根博物館(無料パンフレット)

○千葉県立大利根博物館常設展示案内

展 示：○丸木舟(1968年八日市場市大寺出土、長さ約5m、幅約50cm)

○利根川高瀬船(約1/5模型)

米、醤油、酒、木材などを利根川から江戸川を通して江戸へ運んだ。約600俵の米俵を運ぶことができる。船頭の数多くて6人、普通は4人だった。せいじと呼ばれる居住区があるのも特色の一つ。

○高瀬船に使われた道具

舵(銚子市芦崎の八幡丸で使われていた。高さ240cm、底部コード長さ176cm)

錨(舵と同じく八幡丸で使われていた。高さ101cm)

錨綱(太さ約3cm、しゅろ製)

櫓(全長708cm、腕木長さ541cm、脚長さ193cm、脚幅15cm)

セミ(滑車)

航海燈

帆

○通運丸1/25模型

日本通運の前身である内国海運の蒸気船。1878年(明治11年)より利根川水系に就航した。長さ約20m。



写真9 千葉県立大田原博物館

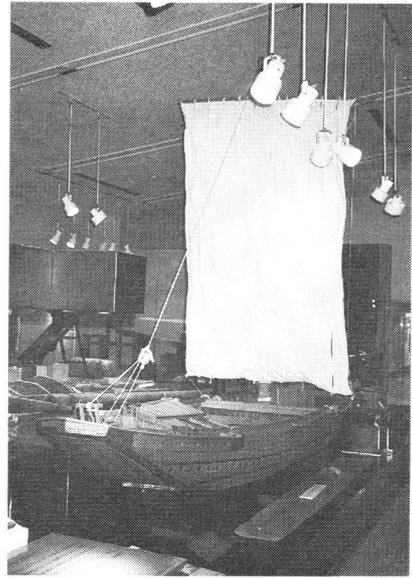


写真10 利根川高瀬船(約1/5模型)

○ポンポン船1/17模型

1955年(昭和30年)頃、水郷地方を航行していた定期旅客船。エンジン音からこの名前がついた。長さ約10mで30人乗り。

○湯船1/5模型

船内に風呂が設けられ、入浴のほか簡単な飲食もできる。おもに高瀬船の船頭たちが利用した。

○伝馬船模型

○航行灯(1965年製作)

水郷地方の定期旅客船で使用。

○田舟

水田で、堆肥や稲束を運んだ。

参考文献：○考古学ライブラリー編集部編：博物館・資料館案内Ⅰ，ニュー・サイエンス社，考古学ライブラリー7，p.40(1984年1月20日再版発行)

○首都圏の博物館，東京新聞出版局，pp.271～272，(1981年12月10日初版発行)

○石井恒男：子どものための博物館，p.164～167(1986年10月31日初版発行)

[1985年9月15日(月)，1991年9月16日(月)現在]

(6)流山市立博物館(千葉県流山市)

流山市立博物館は市制施行十周年記念事業のひとつとして建設され、1978年(昭和53年)6月に併設されている市立図書館と同時に流山市郷土資料館として開館した。開館にあたり、永井仁三郎氏より多くの文化財の寄贈を受けている。博物館はその後、流山市立博物館と名称を変更し現在に至っている。校倉造り風の建物へ入ると、左に図書館があり右側が博物館になっている。

常設展は「流山 —その風土と歴史」という主題のもとに郷土の歴史を、水のもたらしたもの、台地を駆ける、掘り出された古代、という三つの副題により分類し展示されている。船に関しては「水のもたらしたもの」の中に、江戸時代の利根川や江戸川を航行した高瀬舟と、明治時代になり利根運河の建設とこの運河を利用した船舶交通についての展示がみられる。

江戸時代には東北地方からの物資は利根川と江戸川を通過して江戸へ運ばれた。その水運によって流山は繁栄

し、味噌醸造など地元の産業も発達した。明治維新で葛飾県ができたときにはその県庁がおかれた流山だが、鉄道の常磐線のルートからはずれたため、現在では松戸や柏の方が大都市となり有名になってしまった。しかし松戸や柏にはまだしっかりした博物館がないことを考えると、ゆっくりと発展したからこそ流山にこのような博物館を作ることができたのかもしれない。

見る博物館から参加する博物館へという標語を掲げて活動しているが、鎧をつけて撮影できるコーナーがあったりして開かれた博物館という感じが感じられる。写真撮影が自由なのは、はるばるよそから見学に来て下さる方々に対し、著者の地元の博物館として最もうれしいことである。今後もこの博物館が江戸川と利根川を中心とした河川交通に関する船舶資料の情報センターとして発展することを願っている。

〈データ〉

- 名 称：流山市立博物館
 英 名：Nagareyama Municipal Museum
 住 所：〒270-01 千葉県流山市加1225-6
 電 話：0471-59-3434
 交 通：国鉄常磐線(千代田線)馬橋駅乗り換え
 総武流山電鉄流山駅下車徒歩5分
 所 属：流山市
 開館年月：1978年(昭和53年)6月1日
 入館時間：9:30~16:00
 休 館 日：月曜日、月末の日、国民の祝日および休日、12月27日から1月5日
 入 館 料：無料(特別展の場合を除き)
 写真撮影：可
 出 版 物：○流山市立博物館あんない(パンフレット)
 ○展示図録第1集(1978年6月1日発行)
 展 示：○高瀬舟1/10模型(小磯勝氏製作)
 ○高瀬舟の錨(奥木賢二氏提供)
 ○田舟
 稲を積んで船首部につけ縄を多人数で畔から引いて使用した。古くなった川舟を利用したもの。
 参考文献：○全国美術館会議編：『全国美術館ガイド』、美術出版社、p.95(1992年12月10日発行)
 ○東京新聞出版局：『首都圏の博物館』、東京新聞出版局、p.277(1981年12月10日初版発行)

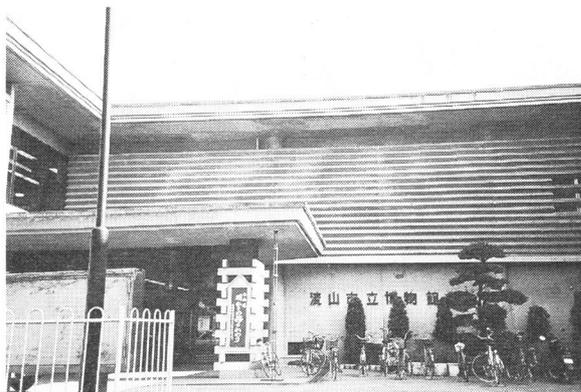


写真11 流山市立博物館

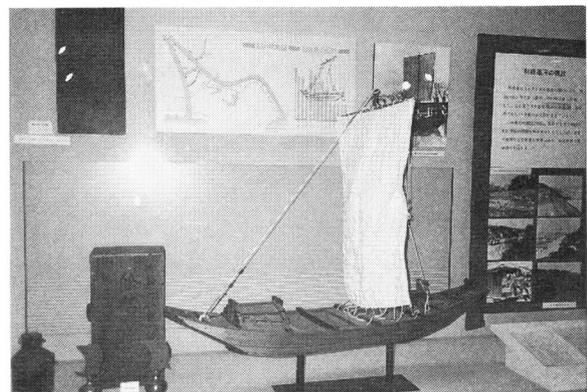


写真12 高瀬舟1/10模型(小磯勝氏製作)

○考古学ライブラリー編集部編：『博物館・資料館案内Ⅰ—考古・歴史・民俗—』，ニュー・サイエンス社，考古学ライブラリー7，p.41(1984年1月20日再版発行)

[1991年2月10日現在]

(7)黒汐資料館(千葉県勝浦市)

日本南岸の黒潮に沿った紀伊半島と伊豆半島と房総半島には同じ地名がみられる。白浜や勝浦は有名だが，布良(妻良)や洲崎(須崎)そして鴨川(賀茂)なども共通した地名なのだろうか。

勝浦駅から徒歩約10分の海辺にある「黒潮の宿 臨海荘」は外から見ても黒っぽいお蔵のような独特な建物だが，内装も古い民家の材料を使用し漁村の家のようなものである。ここの敷地内の別棟に，先代の矢代嘉春氏が約30年にわたり収集した漁具や民具そして捕鯨に関する資料約3000点が展示されている。設立時には，次のような4館に分けて展示されていたようである。

〈1号館 くらしと美〉

○関西漁民移住信仰資料 ○灯火用具 ○台所用具 ○計量器具 ○船絵馬 など

〈2号館 鯨日本〉

○捕鯨用具 ○『グリーン砲』(明治初期に輸入され，捕鯨砲の先駆的役割をもつ)

〈3号館 すなどりから生産へ〉

○和船模型 ○船大工と櫓大工用具一式 ○船灯類 ○紀州式鯛どんぶり仕かけ ○サンゴ網 ○見突き道具
○鮪針製造用具など

〈4号館 すなどりへの愛情〉

○漁民手づくりの各種器具や仕かけ

今はこれらの収集品を一つの建物に集めて見学させているようであるが，元は3号館にあったと思われる20隻近い模型船を見ることができる。その他に羅針盤や流し梶などの船に関する展示もある。また，6000冊におよぶ海洋民俗資料が瘦魚洞文庫として保存されているそうである。

〈データ〉

名 称：黒汐資料館

英 名：Japan Current Museum

住 所：〒299-52 千葉県勝浦市串浜1253-2

電 話：0470-73-1234(臨海荘)

F A X：0470-73-5303(臨海荘)

交 通：国鉄外房線勝浦駅下車徒歩10分

所 属：個人蔵

開館年月：1974年10月

入館時間：10：30～15：00

休 館 日：無休

入 館 料：100円(解説書代)

写真撮影：可

出 版 物：解説書

展 示：○浦安型模型

○五大力型模型 木更津船とも呼ばれた。内湾における千石船。橋をくぐるために船首部が低く造ら

- れている。(江戸～明治時代に使用，木更津の小磯平次氏製作)
- サバニ模型 沖縄の代表的漁船。追込漁や鮪や鮫の釣りに使用。
 - 五下(ごしたまたはごげ)模型 五大力船の小型を意味する。この地方から東京湾に至る各地で使用。
 - 三間(みま)船模型 梶木造りのため，回頭性がよく軽快。見突き漁に適する。
 - 三枚はぎ模型 両舷の三枚板をはぎ合わせて造るので名付けられた。平底のため安定性がよい。外房や伊豆などの外海の標準的な船。
 - 江戸前屋形船模型 投あみ釣りに使用。
 - 海苔親船模型 東京湾の一般的な船。
 - 山春船(やんばるせん)模型 沖縄山原地方の薪炭を那覇方面に運んだ。焼玉機関に替わるまで百数十隻あった。ほぼ同型船として進貢用遣唐船がある。
 - 押送船模型 外房内湾の鮮魚を江戸の魚河岸に急送するための船。浦賀番所の無検査通過を許可されていた。(江戸～明治時代使用，木更津の小磯平次氏製作)
 - 帆うたせ船模型 江戸湾で帆を船首尾線に平行にあげ，漁具を横曳きする。霞ヶ浦でみられるのは一枚帆のうたせである。(羽田の小島貫靖氏製作)
 - 千葉県型やんのう船模型 大正初期にエンジンが普及するまで唯一の遠洋漁船。甲板はなく，前後室が水密になっている。山が見えなくなるほどの沖合まで槽と帆で出漁した。冬季の荒天時の出漁は遭難があとをたたく布良の後家船と言われるほどに悲惨を極めた。しかしこの苦難の結果，最高技術を誇る船頭の輩出を見るようになり，現在世界の海で活躍している。この模型船は1896年(明治29年)日本漁船調査報による復元である。(使用地 千葉・静岡，勝浦の吉野松次郎氏製作)
 - 一隻捲アメリカ巾着船模型 第二次大戦後に技術導入されて数隻が造られたが間もなく使われなくなった。
 - 九十九里浜地曳船模型 膨大な網を積むために細長い船型で，船底勾配の小さいことが特長。常に砂浜に乗り上げるので倒れるのを防ぐためである。水押(みよし)がはずれるものもある。
 - 折衷型(半キール)船模型 エンジンの馬力が大きくなり回転速度が増すと今までの和船では外ドモが脆弱で破損するおそれがあるため，外ドモをキール船のように囲いがためにし，シキは和船型とした。スクリューは和船と同様に上下装置とした。第二次大戦後10年程使用されたが，以後港湾が整備されるとともに完全なキール型に移行する。
 - 昭和初期のあぐり船模型 焼玉エンジンが未発達のため，補助帆走もした。他船と船腹が接触したときに損傷を防ぐために梶床を短くしてある。

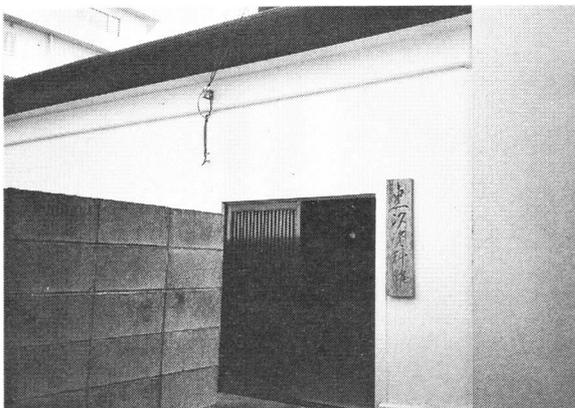


写真13 黒汐資料館(千葉県勝浦市)

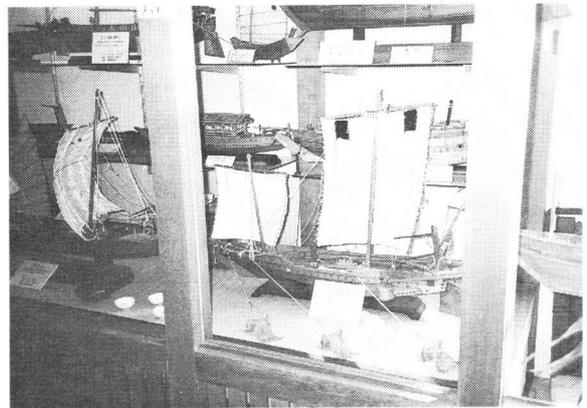


写真14 帆うたせ船模型

○流し梶 瀬戸内等の浅海で使用された。

参考文献：○東京都博物館協議会：『東京の博物館』，東京都博物館協議会，p.359(1989年2月28日改訂増補版発行)

○吉羽和夫：『続・科学の散歩道』，共立出版 共立科学ブックス43，p.139(1979年12月20日初版1刷発行)

[1993年4月3日(土)現在]

(8) 鴨川市郷土資料館(千葉県鴨川市)

鴨川市郷土資料館は鉄筋コンクリート2階建て671.44m²の建物で1階都2階に展示室がある。1階には民俗歴史資料と政治家の水田三喜男遺品展が，2階には民俗歴史資料と歌人の古泉千樞と宮彫師の波の伊八の作品の展示がある。1階の民俗歴史資料は農家のくらし，商業，漁業に分けられ，2階の民俗歴史資料は生産と生業，民俗芸能，歴史資料に分けられている。

1階の漁業の展示の中に実物の漁船がある。小型の漁船で幅(コード長さ)26cmの舵がついていた。船に関する展示は少ないが，この付近で使われていた実物の漁船を今後も大切に保存し，機会があればさらに収集してもらいたい。

〈データ〉

名 称：鴨川市郷土資料館

英 名：Kamogawa City Local Museum

住 所：〒296 千葉県鴨川市横渚1401-6

電 話：04709-3-3800

交 通：外房線内房線安房鴨川駅下車徒歩10分

日東交通バス市役所前下車

所 属：鴨川市

開館年月：—————

入館時間：9：00～16：00

休 館 日：月曜日(国民の祝日が重なる時は当日と翌日)，国民の祝日，年末年始，その他特に必要と認める時

入 館 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：鴨川市郷土資料館見学のしおり(無料)

展 示：○小型雑漁船

いっちょ漕ぎと称され，鱒や海老網漁またはサザエなど魚介類の磯漁業用に使われた。

○木錨

比較的小さな船に使われた木製の錨。

○帆どう

帆を張るときに使用した木製の滑車。コマもすべて木製のためキリキリと音をたてた。

○櫓

いっちょ櫓とも呼ばれ小型木舟の推進用具として使われた。

○鴨川地曳網船模型

○六分儀(1929年)



写真15 鴨川市郷土資料館(千葉県鴨川市)

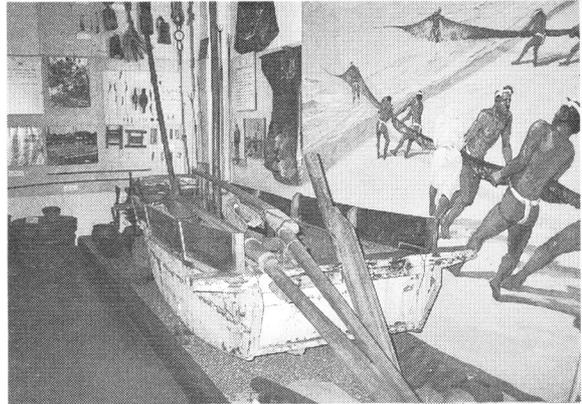


写真16 小型雑漁船

参考文献：○考古学ライブラリー編集部編：『博物館・資料館案内Ⅱ —教育委員会・埋文センター・研究会— 覧—』，ニュー・サイエンス社 考古学ライブラリー20，p.34(1984年1月20日初版発行)

○東京都博物館協議会編集：『東京の博物館』東京都博物館協議会，p.359(1989年2月28日改訂増補版発行)

[1993年4月2日(金)現在]

2. 3 東京都

(9) 明治丸(東京都江東区)

明治丸はイギリスのグラスゴーにあるネピア造船所において1874年(明治7年)9月26日に進水し，11月に竣工，翌年2月20日に回航されて横浜に到着した。総トン数1027.57トン，長さ(甲板長さ)68.6m，幅9.14m，2軸の鉄製汽船である。

灯台巡視船として造られたが当時の最優秀船であったため，皇室の御召し船としても使用された。したがって本来の業務の他に，1875年(明治8年)11月に小笠原諸島を日本政府が領有する旨を島民へ伝達した航海，1876年(明治9年)7月に明治天皇の東北および北海道巡幸の御召し船としての航海，1879年(明治12年)4月の琉球併合の際に那覇へ派遣され元琉球藩主の王子を東京まで乗船させた航海，1887年(明治20年)11月に行った硫黄列島への探検航海などが特筆される。なかでも東北および北海道巡幸の御召し船としての航海において，明治天皇の乗船した明治丸が1876年7月20日に横浜へ帰着したのを記念して1941年に『海の記念日』が定められた。

その後，1897年(明治30年)9月に商船学校に貸与，11月に移管され係留練習船となった。1901年(明治34年)12月25日に現在の東京商船大学構内に移動し水上に係留固定された。

1978年(昭和53年)5月には貴重な海事史を伝える船，日本に現存する唯一の鉄船ということで船としては初めて重要文化財に指定された。1988年(昭和63年)1月29日に保存修理工事が完了し，1989年(平成元年)5月16日より一般公開が始められた。

建造当時の帆装は2本マストのトップスルスクナーであったが，1898年(明治31年)に品川の緒明造船所にて現在のような3本マストのシップ型に改装された。

船内のみどころとしては，まず明治天皇御座所が主甲板の右舷後部にある。公室，寝室，浴室の三部屋が続いており，その壁面は板絵で飾られている。第二次大戦後，米軍に接収された際に壁面はペンキが塗られてしまったが，それを剥がして復元したものである。主甲板の最後部にあるサロンは両舷に客室をもち，中央部の通路にマホガニーのテーブルを配置している。客室との境界となる壁面は縦型鎧張りとなっている。柱の頂部には唐草模様が描かれ，そのうちのいくつかは照明灯となり客室とサロンの両方の明りとして使用されている。初期の頃に用いられていたロウソクは下部のスプリングにより常に光が一定の高さになるように調節されていた。半円形

のソファー、船尾の角窓なども当時の豪華さが偲ばれる。船内の壁面には金泥(きんでい)塗り、玉杓(たまもく)塗り、柾目(まさめ)塗りなどの特殊な塗装技術が再現されている。主甲板の船首側は現在広いスペースとなっているが、もとは小さく区切られた船室であったことが建造時のまま残っているビームに刻まれた文字により読み取ることができる。

船体を外部から眺めると、船首と船尾にはアカンサスの横帯文様が描かれている。この装飾は外板に残った腐蝕の違いや鋳でとめた穴の跡などから推定したものである。船首と船尾には船名がローマ字で『MEIJI MARU』と書かれている。船尾の手摺りの根元には漢字で右から小さく『明治丸』と記されている。

そのほか船内には、三方ビルジコック(重要文化財の一部として文化庁保存指定)、ナツメブロック、ダブルブロック、ポート用ブロック、スナッチブロック、デッドアイ(三つ目滑車)などの滑車類、ミズンマストクリート、プーリブロック、ビレーピン、フォアゲルンヤードチークブロック、フェアリード、磁気コンパスビナクルスタンド、食器、煙草盆など建造当初から明治丸に備えられていた実物が展示されている。

現在、明治丸には商船大学OBの方々によってボランティアクラブがつくられていて見学の際には案内をしてくれるので、船についての興味ある体験談を聞くことができるかもしれない。また大学構内には、G.E.O.ラムゼーの功德碑、菅船長の石像、第一および第二観測台、船のブリッジをイメージして建てられた一号館など史跡や歴史的建物も多い。また明治丸に隣接して百周年記念資料館があり、この中にも和船から汽船に至る船の模型や、歴史的なエンジンが展示されている。

〈データ〉

名 称：重要文化財 明治丸

英 名：Meijimaru

住 所：〒135-8533 東京都江東区越中島2-1-6 東京商船大学内

電 話：03-5245-7300(代表)

交 通：国鉄京葉線越中島駅下車徒歩3分

地下鉄東西線門前仲町駅下車徒歩10分

地下鉄有楽町線月島駅下車徒歩10分

所 属：東京商船大学

開館年月：1989年5月16日

入館時間：10:00~15:00(毎週火・木曜日(祝日は除く)と第1, 3土曜日, 7月20日)

休 館 日：上記以外

入 館 料：大人280円, 高校生以下170円

写真撮影：可

出 版 物：無料パンフレット

展 示：○明治丸模型(建造時)

○三方ビルジコック(重要文化財の一部として保存指定)

○滑車類など(ナツメブロック, ダブルブロック, ポート用ブロック, スナッチブロック, プーリブロック, デッドアイ(三つ目滑車), フォアゲルンヤードチークブロック, ミズンマストクリート, ビレーピン, フェアリード)

○磁気コンパスビナクルスタンド

○食器類, 煙草盆

参考文献：○明治丸史, 明治丸史編集部会編集, 昭和57年7月

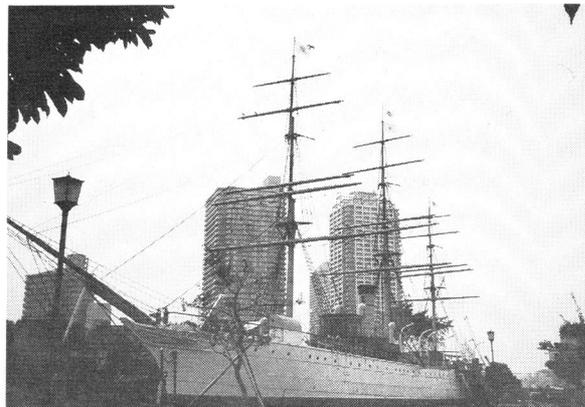


写真17 明治丸(東京都江東区)

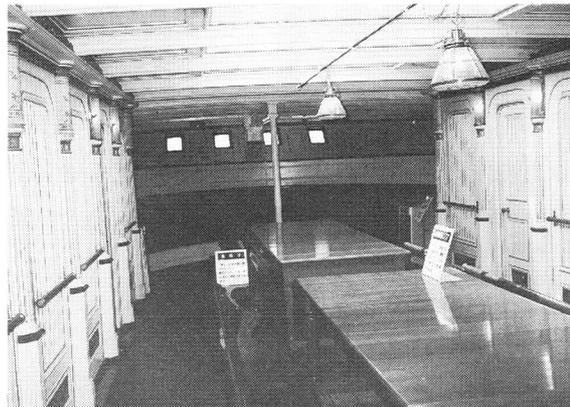


写真18 サロン

○明治丸について，財団法人東京商船大学後援会，1969年

○橋本進：明治丸の帆装，東京商船大学研究報告(自然科学)第38号，pp.19-26，1987年12月

○重要文化財明治丸，東京商船大学，1988年

[1995年7月20日現在]

(10) 船の科学館(東京都品川区)

東京港の入り口に，地上6階，地下2階の六万トン級の客船に模した独特な外観をもつ建物が船の科学館である。

展示室は地下1階から2階までにある。1階展示室では「船のおいたち」，地下では海洋開発についての「海をひらく」，2階では「船のあゆみ」そして「発展する東京港」のコーナーがある。地上70mの展望室からの眺望も見逃せない。

栈橋に係留されている『宗谷』は1938年(昭和13年)に建造されて以来，貨物船，旧海軍の特務艦，引揚船として活動した。1956年(昭和31年)から6年からは南極観測船としての任務を果たした。

船の科学館は日本の船の博物館のリーダーにふさわしく写真撮影が自由である。今後も自由に見物できる雰囲気も大切に，貴重な資料の収集に努めてもらいたい。

〈データ〉

名 称：船の科学館

英 名：Museum of Maritime Science

住 所：〒135 東京都品川区東八潮3番1号

電 話：03-3528-1111

交 通：国電品川駅東口より都営バス約15分，国電大井町駅南口より京急バス約20分，国電大森駅東口より京急バス約25分，地下鉄東西線門前中町駅より都営バス約30分，地下鉄有楽町線豊洲駅より都営バス約15分，船の科学館下車。竹芝栈橋より水上バス。

所 属：財団法人日本海事科学振興財団

開館年月：1974年(昭和49年)7月20日

入館時間：10：00～17：00(宗谷は16：45まで)

休 館 日：12月28日～1月1日

入 館 料：大人500円，学生400円，小人300円

写真撮影：可

出版 物：○船の科学館(無料パンフレット)

展 示：《館内》

- 海苔ベカ船
- 下北半島六ヶ所村泊の丸木舟
- 縄文時代の独木舟(レプリカ)
- 男鹿の独木舟
- 佐渡のたらい舟
- ハコブネ

神奈川県大磯や二宮で延縄漁や刺し網漁などに使用された1人乗りの磯船。昭和30年代には30隻くらい残っていたが今ではFRPに覆われたものが5～6隻残っているだけ。加藤松次郎氏寄贈。

- 越前海岸の筏
- ベニスのゴンドラ
- ガレー船模型(紀元前480年,ギリシア海軍がサラミスの海戦でペルシアを破ったときの三段ガレー船)
- 『サンタマリア』模型
1492年,コロンブスが西インド諸島を発見したときに乗ったカラック型帆船
- 『ビクトリー』模型
1805年,トラファルガー海戦でフランスとスペインの連合艦隊を破ったイギリス地中海艦隊ネルソン提督の旗艦
- 『カティーサーク』模型
19世紀,中国やオーストラリアとの貿易に使用されたクリッパー帆船)
- 江戸時代の樽廻船1/5模型
- 弁財船模型
- 関船型軍船1/20模型
- 安宅型軍船1/20模型
- 五大力船1/20模型
- 押送船模型
- 湯船模型
- 日除船模型
- 箱造り日除け船模型
- 屋形船模型
- 徳島藩海御座船『至徳丸』1/20模型(全長26m 幅6.3m)
- 海御座船『天地丸』1/13.7模型
- 御召替御座船『泰寶丸』1/13.5模型
- 『鳳凰丸』君沢型スクーナー1/50模型
- 『昌平丸』1/50模型
- 『観光丸』1/50模型(日本が最初に所有した蒸気船,1855年(安政2年)オランダから譲りうける)
- 『咸臨丸』1/50模型(この模型はオランダのロッテルダムにある海事博物館に残されていた設計図をもとにオランダで製作された)
- 『宮島丸』1/50模型(長さ29.4m,幅6.5m,1212GT,1892年(明治25年)建造)



写真19 船の科学館(東京都品川区)

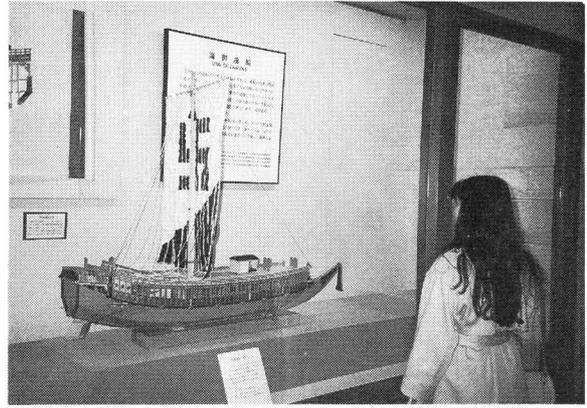


写真20 徳島藩海御座船『至徳丸』1/20模型

- 『西浜丸』1/20模型(合の子船復元模型, 明治後期)
- 『うめが香丸』模型
- 『浅間丸』模型
- 『新田丸』模型
- 『東米丸』模型
- ダウ模型
- アウトリガーカヌー模型
- タイ王室の御座船模型
- 『開南丸』模型
- 『宗谷』模型
- 『ふじ』模型
- 『しらせ』模型
- 戦艦『大和』模型
- 巡洋艦『妙高』模型
- UE ディーゼルエンジン, など
- 《屋外》
- 『宗谷』(1938年建造, 南極観測船)
- 『マリンエース』(半没水型双胴船)
- 『PC-18』(深海潜水艇)
- 『野性号Ⅱ』(フィリピンのルソン島から鹿児島まで実験航海した)

[1992年12月10日現在]

(11) 東京水産大学水産資料館(東京都港区)

かつて水産講習所があった場所は現在, 東京商船大学が使用させてもらっており, 東京水産大学は品川駅の近くへ移ってしまった。最近, 浜松町から羽田空港へ向かうモノレールの途中にできた新駅『天王州アイル』からも近い。構内には, 東京商船大学の『明治丸』と同じように多くの水産実習学生を育てた『雲鷹丸』がおかれている。この船は水産講習所の第2代研究練習船として, 33次にわたる航海を行った。東京水産大学の70周年記念事業の一環として, 1970年に大学の構内に移され復元されたものである。

水産資料館の1階と2階には, 大学の練習船の模型が数隻, 展示されている。さらに海苔の養殖用の『べか』の実物がある。また海外諸機関から寄贈された模型船も見られる。魚や貝の標本など水産資料ももちろん貴重な

資料であるが、これらの船舶の資料も水産漁業練習船の歴史を知る大切なものである。A 5 版の14ページのパンフレットには、和文と英文が併記されていて大変親切に作られている。そこには水産資料館の歴史も示されているが、その起源は1902年(明治35年)3月に農商務省水産講習所に標本室が完成したときにまでさかのぼることができる。関東大震災で灰燼に帰した資料も1936年(昭和11年)3月には再建されたが、1945年(昭和20年)8月に越中島の図書標本室は進駐軍の接收により閉鎖された。1951年(昭和26年)には東京水産大学付属水産博物館として再出発し、現在に至っている。このように水産資料館そのものも多くの歴史をもっている。

〈データ〉

名 称：東京水産大学水産資料館

英 名：Museum of Frishery Sciences, Tokyo University of Fisheries

住 所：〒108 東京都港区港南4-5-7

電 話：03-3471-1251

交 通：品川駅東口(港南口)より徒歩15分

所 属：東京水産大学

開館年月：1971年(昭和46年)9月

入館時間：9:00~17:00(入館は16:30まで)

休 館 日：土曜日、日曜日、祭日、年末年始(12月28日~1月4日)

入 館 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：東京水産大学水産資料館案内(水産資料館運営委員会編)

展 示：《模型船》

○『快鷹丸』(スクーター型帆船, 1/50, 1901~1907)

石川島造船所にて建造。明治33年12月6日起工, 明治34年12月20日進水, 明治40年9月9日遭難(韓国迎日湾において覆没)。137.66総トン, 長さ28.85m, 幅7.7m。

○『雲鷹丸』(二層重甲板, 三橋バーク型鋼製帆船, 1909~1929)

水線間長41.2m, 型幅8.7m, 型深さ5.0m, 平均喫水3.7m, 総トン数444.22トン, 純トン数227.91トン, 最大速度12.5ノット, 汽走巡航速度8.5ノット, 1908年5月起工, 1909年2月21日竣工, 大阪鉄工所桜島造船所建造, 1929年8月廃船。

○『白鷹丸』(1929~1944)

神戸川崎造船所にて建造, 1928年12月起工, 1929年9月竣工。画期的な練習船として進水した。1943年に徴用されて翌年兵員物資を満載して硫黄島まで輸送した。同年3月20日午前1時頃鳥島北東10哩の海域で左舷ブリッジ直下に魚雷を受けて戦争の犠牲となった。

○『海鷹丸Ⅱ』(1955~1972)

藤永田造船所建造, 全長73.37m, 型幅11.3m, 型深さ5.50m, 計画喫水4.33m, 1452.91GT。わが国初めての戦時トロール方式を採用したため船尾に捕鯨母船スリップウェイとそれにまたがる高いフレームのトロール船橋, さらにその後面に深海採泥用鳥居型クレーンを設けたのが外観上の著しい特徴である。1956年9月には南極観測船『宗谷』に随伴して南極航海に出た。

○『海鷹丸Ⅲ』(研究練習船1/50, 1973~)

三井造船藤永田造船所建造, 1972年10月27日起工, 1973年2月21日進水, 1973年6月22日竣工, Lpp71.000m, 型幅12.400m, 満載型喫水5.150m, 1828.66GT, 612.02NT, 最大速度15.116ノット

- ト。
- 『神鷹丸Ⅱ』(1/50, 1963~1984)
林兼造船建造, 1962年9月17日起工, 1963年4月20日竣工, 全長47.2m, Lpp42.0m, 型幅7.8m, 382.07GT。日本で最後のサイドトロローラー。
 - 『神鷹丸Ⅲ』(漁業練習船1/50, 1984~)
住友重機追浜造船所浦賀工場建造, 1984年5月8日起工, 1984年8月10日進水, 1984年12月10日竣工, 全長60.02m, Lpp53.0m, 幅10.6m, 深さ6.80m, 喫水4.00m, 649GT, 航海速力13.0ノット。
 - 『青鷹丸』(1966~1987)
1965年10起工, 1966年3月竣工, Lpp29m, 216.78GT。
 - 『青鷹丸Ⅱ』(漁業練習船1/50, 1987~)
1987年3月19日起工, 1987年10月31日竣工, 全長35.50m, 登録長31.50m, Lpp31.00m, 型幅7.00m, 3.40m, 167GT, 80NT, 航海速力11.5KT。
 - 『湊丸』 模型(サイドトロローラー)
 - パーク型帆船艀装模型
 - 鋼船構造模型
 - 木船構造模型
 - サバニ模型
沖縄地方の小船で幅が狭く細長い船型が特徴。
 - ダウ模型(1968年クウェート国立研究所寄贈)
15世紀頃から今日に至るまで紅海, インド洋西部で使われている。
 - カヌー模型(サモア産)
荏原千秋名誉教授寄贈
《実物》
 - べか(のりべか)
羽田の石井幾右衛門氏寄贈。全長4.45m, 全幅0.85m。
 - 『雲鷹丸』の舵輪

参考文献：○東京都博物館協議会編集・発行：『東京の博物館』, p332(1989年2月)

○樋口秀雄, 加藤有次監修：『父と子の博物館』, 富士書店, pp.46(1976年7月)

○東京新聞出版局：『首都圏の博物館』, p.122(1981年12月)

○科学読物研究会編：『新版親子で楽しむ博物館ガイド(首都圏PART 1)』, 大月書店, pp.91~92



写真21 東京水産大学水産資料館(東京都港区)

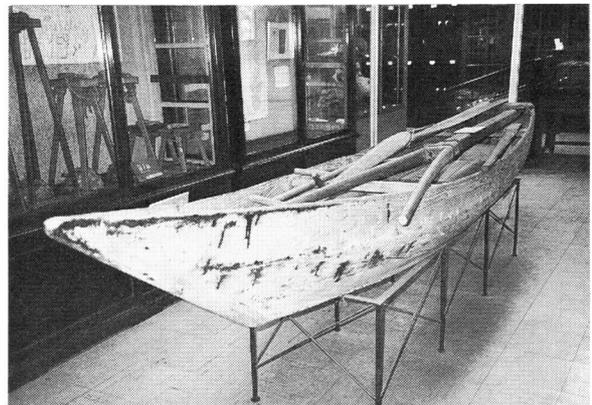


写真22 ベか(のりべか)

(1993年5月)

○吉羽和夫：『科学の散歩道』，共立出版，共立科学ブックス43，pp.156～157(1979年12月)

○PHP 研究所編集・発行：『博物館徹底ガイドハンドブック』，p.53(1933年5月)

○ブルーバックス編集部編：『全国科学・博物館ガイド』，講談社，ブルーバックスB-572，p.36

(1984年6月)

{1994年5月26日(木)現在}

(12) 新島郷土館(東京都新島村)

新島郷土資料館の展示は次のように分類されている。

- ①地 理：新島や式根島の1万分の1模型や伊能忠敬作の新島沿海地図など
- ②考 古：矢じり，石おの，縄文弥生式土器など
- ③海 産：新島沿岸海産標本，漁船や島ろの模型，各種の漁具など
- ④陸 産：抗火石，さつま芋やつばきの加工用具など
- ⑤民 俗：建物，服装，燈火，工作物，風俗，消防，娯楽，祝儀，民謡など
- ⑥来島した人びと：江川太郎左衛門，1989年に新島の地質調査を最初に行った学者福地信世など
- ⑦流 刑：宇喜多秀家の書，為朝など
- ⑧政 経：奉行の高札，外国船に対する島の防衛書など
- ⑨文 教：寺子屋で用いた机と本，回船安乗録など
- ⑩参考資料：名勝旧跡写真集，今昔写真集など

このなかの海産部門に漁船模型が展示されている。この漁船による生産は1925年(大正のはじめ)頃まで新島移出産業の90%をしめた。その船型は新島の大工によって荒波のなかで操業に適するように工夫されていた。しかし現在一隻も残されていないそうである。また三枚の板をつないだ「島ろ」は二枚の板をつないだ普通の「ろ」に比べ荒波に適するように工夫開発されたものである。

〈データ〉

名 称：新島郷土館

英 名：—————

住 所：〒100-04 東京都新島本村6番地

電 話：04992-5-0209

交 通：新島黒根港より徒歩30分

所 属：新島村

開館年月：—————

入館時間：9：00～16：30(夏期は8：00～17：00)

休 館 日：年中無休

入 館 料：大人100円，小中学生50円

写真撮影：可

出 版 物：新島郷土館(パンフレット，無料)

展 示：○漁船模型(1/10)

漁船大工大沼寅松氏製作

○島ろ(三枚ろ)模型(1/10)



写真23 新島郷土館(東京都新島村)

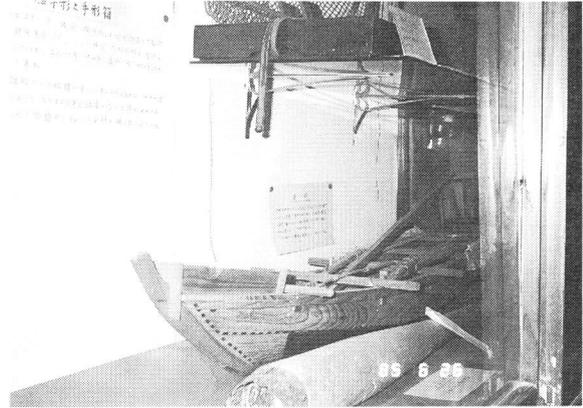


写真24 漁船1/10模型

○ども安の島抜けした船の「せみ」

参考文献：○『東京の博物館』、東京都博物館協議会編集発行、p.328(1989年2月28日改訂増補版発行)
[1985年6月26日(水)現在]

2. 4 神奈川県

(13) 日本丸(神奈川県横浜市)

練習船「日本丸」は1930年(昭和5年)に神戸の川崎造船所で建造された、4本マストのバーク型鋼製帆船である。全長97.05m、総トン数2284トンで、帆の枚数は35枚、総面積約2397m²、水面からマストの最高部まで約46mある。

商船学校では、初期の頃には小型の帆船により教育を行ってきたが、1890年(明治23年)に頼信丸、1896年(明治29年)に稲穂丸、1900年(明治33年)に月島丸と相次いで海難事故が発生したため、安全性の高い大型船の使用が望まれていた。この事故を契機として1904年(明治37年)には東京高等商船学校の大成丸(総トン数2423トン)、1924年(大正13年)には神戸高等商船学校の進徳丸(総トン数2518トン)、そして1930年には地方公立商船学校の練習船として「日本丸」と姉妹船の「海王丸」が建造された。

1930年10月4日より文部省航海訓練所の練習帆船として遠洋航海を開始したが、第二次世界大戦中の1943年(昭和18年)に帆装を撤去して瀬戸内海で戦時緊急物資の輸送任務につき、戦後は1945年(昭和20年)12月から海外に残された人々の引揚輸送に従事した。1952年(昭和27年)には帆装を復活させ運輸省航海訓練所の練習船として、再び船員養成に貢献してきた。この間、延べ183万kmを航海し、11500名の実習生を育てた。1984年(昭和59年)9月16日には日本丸Ⅱ世(総トン数2570トン)と交代し、9月17日に船籍港を「横浜」に変更した。

横浜の桜木町駅付近は随分と変わってしまった。海側にあった三菱重工横浜造船所はなくなり、駅に近い区画はメモリアルパークになっている。この公園は開門が8時30分、閉門が21時30分である。この時間内であれば『日本丸』の見学時間外でもまわりからは眺めることができるが、ここで特筆すべきは『日本丸』が係留されているドックである。これは三菱重工横浜造船所の1号ドックで1899年(明治32年)に35000個の安山岩を積み上げて完成したものである。

『日本丸』の船内は順路に沿って見学するようになっていて、実際に練習船として使われていたそのままの状態がみられる。稼働年数世界一の国産ディーゼルエンジンのある機関室や小さな手術台のある診察室も興味深い。船内の一室には、方位鏡、方位環、六分儀、メインマスト頂部に設置されていた避雷針、安全灯、ボートコンパス、油灯などが展示されている。

『日本丸』と隣り合わせに大部分を地下構造にした「横浜マリタイムミュージアム」がつくられている。帆船日本丸、横浜港の歩み、船の変遷、横浜港の姿、世界の港の五つの区画と特別展示室、ライブラリーなどをもつ

充実した船の博物館である。『ボウハタン』、『サスケハナ』など黒船の1/96模型や、『天洋丸』、『照国丸』の1/100模型など、私が数えただけで32隻の模型船が展示されている。ミュージアムショップでは『Great Maritime Museum of the World』という本が売られているが、その中に掲載された24の博物館の中で横浜マリタイムミュージアムだけがおそらく唯一の例外として館内撮影禁止となっているが残念である。

〈データ〉

名称：帆船「日本丸」

英名：Sail Training Ship Nippon Maru

住所：〒220 神奈川県横浜市西区みなとみらい2丁目1番1号

電話：045-221-0280

交通：国電京浜東北線、東急東横線、市営地下鉄、桜木町駅下車、徒歩7分

所属：財団法人帆船日本丸記念財団

開館年月：1985年4月28日(昭和60年)

入館時間：10:00~17:00(ただし7、8月は18:30まで、11~2月は16:30まで)

休館日：月曜日、祝日の翌日(休日、土、日曜日を除く)、年末(12月29日~12月31日)

入館料：大人(高校生以上)600円、小人(小中学生)300円

(日本丸と横浜マリタイムミュージアム共通)

写真撮影：可

出版物：○帆船日本丸(無料パンフレット)

○写真集帆船日本丸

展示：方位鏡、方位環、六分儀、安全灯、ポートコンパスなど

参考文献：○柳原良平：柳原良平の船の博物館，東洋経済新報社，pp.82~84(1985年7月25日発行)

○科学読物研究会編：親子で楽しむ博物館ガイド，大月書店，pp.81~82(1990年7月6日第6刷発行)

○Peter Neill, Barbara Ehrenwald Krohn: Great Maritime Museums of the World, Balsam Press Inc., pp.110~121(1991)

○NHK編：船，日本放送出版協会，人間は何をつくってきたか3，pp.56~57(1980年7月1日第1刷発行)

○橋本進編：帆船図説，海文堂(1979年1月15日初版発行)

○土井全二郎：総帆あげて，海文堂(1977年6月10日初版発行)

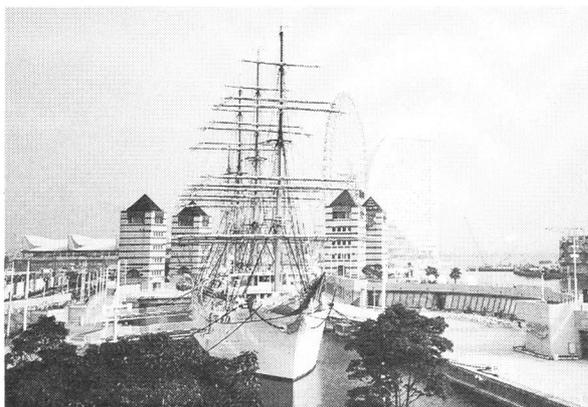


写真25 日本丸(神奈川県横浜市)

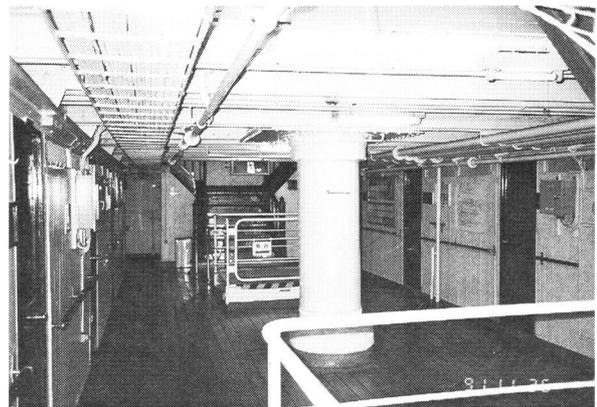


写真26 メインマストと実習生居住区

[1990年2月18日, 1991年11月26日現在]

(14) 氷川丸(神奈川県横浜市)

『氷川丸』は1930年(昭和5年)4月25日に三菱横浜造船所において完成し、この年の5月13日にはシアトルへ向けて処女航海に出港した。1941年(昭和16年)8月にシアトル航路が休止するまで73回の航海を行なった。その中にはチャーリーチャップリンの乗船した1932年の第11次航や、イギリス国王ジョージ6世の戴冠式に出席された秩父宮御夫妻が帰国する際にカナダのビクトリアから横浜まで乗船された1937年10月の第47次航などがある。

1941年11月に海軍に徴用され、病院船として改装された。煙突と両舷に赤十字のマークがつけられた白い船体の氷川丸はトラック、ラバウルなどを中心に南方海域で活動し、第2次世界大戦の終わる日を舞鶴で迎えた。

終戦後、復員輸送船として、1945年(昭和20年)9月15日に舞鶴からミレ島へ向け出港、次いで同じ年の10月26日には浦賀からウェーキ島、クサイ島へ向け出港した。ウェーキ島へは9月下旬に橘丸が来ているので、氷川丸は二番目の復員船として11月1日に着いた。

1953年(昭和28年)に三菱横浜造船所において再び貨客船としての改装工事が行われ、この年の7月に太平洋を横断するわが国唯一の客船としてシアトル航路に復帰した。しかし1960年(昭和35年)10月、復帰後の第46次航を最後に引退した。

横浜市は開港100年記念事業の一つとして、氷川丸を横浜港へ誘致する計画をたて、神奈川県と共同して日本郵船会社に陳情し、1961年(昭和36年)に山下公園に係留され現在に至っている。

氷川丸は総トン数11632トン、載貨重量トン数8000トン、全長163.3m、幅20.12mで、最高速力は18.21ノットだった。船級はイギリスのロイド船級協会の最高船級である100A1を取得し、旅客定員331人、乗務員126人となっていた。

船内に入るとまずエンジンルームがある。デンマークのB&W社で製造され1930年(昭和5年)に輸入された4サイクル複動ディーゼル機関で、シリンダ直径680mm、ピストン行程長さ1600mm、毎分110回転、1基の出力が5500馬力なので、2基合わせて出力11000馬力である。

その他にも、特別室、船長室、船橋など就航当時の状態がそのまま見られ、以前にあった子供だましのパノラマやゲームセンターの雰囲気は姿を消した。船体の塗装は緑色から現役時代の黒色に戻り、マリンヒストラムと名付けられた展示がつくられるなど、氷川丸の存在価値が見直されてきたのはうれしいことである。

〈データ〉

名 称：氷川丸

英 名：Hikawamaru

住 所：〒231 神奈川県横浜市中区山下町山下公園地先

電 話：045-641-4361

交 通：国鉄京浜東北線、東急東横線桜木町、バス26系統山下公園前下車
国鉄根岸線石川町下車、徒歩15分

所 属：氷川丸マリンタワー株式会社

開館年月：1961年6月2日(昭和36年)

入館時間：9:30~20:00(平日)、9:00~21:30(休日)

休 館 日：無休

入 館 料：大人700円、小人300円、幼児250円

写真撮影：可

出版物：○無料パンフレット

展 示：《日本郵船100周年記念氷川丸マリンヒストラム》

○浅間丸模型

○房州和船模型

○グレートブリテン模型

○龍田丸(Tatsuta Maru)1/100模型

1930年三菱重工長崎造船所建造，客船，16955総トン

○田島丸(Tashima Maru)1/100模型

1964年石川島播磨重工業相生工場建造，タンカー，88541載貨重量トン

○新田丸1/100模型

1940年3月23日竣工，三菱重工長崎造船所建造，17150総トン，貨客船のち空母沖鷹に改造

○氷川丸1/200模型

○阿蘇丸模型

○若波丸(Wakanami Maru)模型

○航海計器

マグネットコンパス，ホグホーン(霧中号角)，パテントログ(曳航測程儀)，バロメータ，船内時計，アジマスサークル(方位環)，アジマスミラー(方位鏡)，セクスタント(六分儀)，クロノメーター(時辰儀)，スターンライト(船尾灯)

○絵画

「佐渡丸(三世)」山高五郎画

「熱田丸(二世)」作者不詳

「榎原丸」伊藤靖宏画

「秩父丸」野上隼人画

「備後丸(一世)」作者不詳

「浅間丸(一世)」今里龍夫画

「信濃丸」野上隼人画

参考文献：○高橋 茂：氷川丸物語，かまくら春秋社，1978年6月28日発行

○柳原良平：柳原良平の船の博物館，pp.77～81，東洋経済新報社，1985年7月25日発行

[1991年12月9日(月)現在]

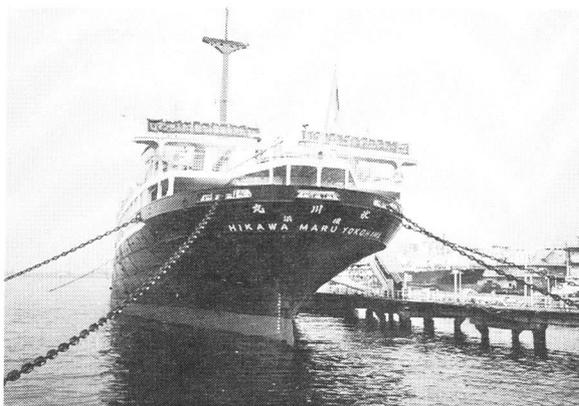


写真27 氷川丸(神奈川県横浜市)



写真28 エンジンルーム

3. 文献調査結果

文献⁹⁻¹⁵⁾から、船舶関係資料をもつと思われる博物館について調査した。その結果を県別にまとめ以下に示す。この中で◎印は現地調査した施設である。

〈茨城県〉

◎大洗海洋博物館

英 名：Oarai Marine Museum
住 所：〒311-13 東茨城郡大洗町磯浜6890
電 話：0292-66-1444
交 通：常磐線水戸駅下車，海のこどもの国行バス35分，大洗神社前下車徒歩5分
所 属：大洗磯前神社
開館年月：1959年(昭和34年)8月
入館時間：8：00～17：00(4月～9月)，8：30～16：30(10月～3月)
休 館 日：水曜日，12月31日
入 館 料：大人250円，小人150円
写真撮影：可
出 版 物：無料パンフレット
展 示：海洋に関する自然史資料，海洋観測器具

○大野村郷土資料館

英 名：Oono-Mura Folkways-Folk Archaeological-Hall
住 所：〒311-22 鹿島郡大野村大字角折字忠2096-1
電 話：0299-69-4411
交 通：鹿島線鹿島神宮駅乗り換え，大洗鹿島線長者ヶ浜潮騒はまなす公園前駅下車徒歩10分
所 属：大野村
開館年月：1990年4月
入館時間：9：00～16：30
休 館 日：月曜日(祝日の場合は翌日)，祝日，年末年始
入 館 料：大人300円，小人200円，幼児100円
写真撮影：—————
出 版 物：—————
展 示：海岸の漁具，湖岸の漁具

○大野村潮騒はまなす公園美術館・資料館

英 名：Oono-Mura Shiosai Rosa Rugosa Park
住 所：〒311-92 鹿島郡大野村津賀1919-1 旧役場庁舎内
電 話：0299-69-1111
交 通：鹿島線鹿島神宮駅からバス銚田(湖岸)行き，額賀下車，徒歩30分
所 属：大野村

開館年月：—————

入館時間：9：00～17：00

休館日：日曜日，年末年始

入館料：無料

写真撮影：—————

出版物：—————

展 示：海，北浦の漁具

○北茨城市歴史民俗資料館・野口雨情記念館

英 名：Kitaibaraki City Folk Historical Material Museum

住 所：〒319-15 北茨城市磯原町磯原130-1

電 話：0293-43-4160

交 通：常磐線磯原駅よりバス，大津港行旧磯原下車徒歩1分

所 属：北茨城市

開館年月：1980年9月1日

入館時間：9：30～16：30

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)，12月29日～1月1日

入館料：大人300円，児童・生徒・学生100円

写真撮影：—————

出版物：—————

展 示：漁業関係資料

◎境町歴史民俗資料館

英 名：Sakai-machi Historical Folklore Museum

住 所：〒306-04 猿島郡境町大字西泉田1326-1

電 話：0280-87-8551

交 通：東北本線古河駅より東武バス40分，境町車庫終点下車，徒歩20分

所 属：境町

開館年月：1979年11月3日

入館時間：9：00～16：00

休館日：第1，3月曜日(祝日の場合は翌日)，第2，4，5日曜日，12月28日～1月4日

入館料：無料

写真撮影：可

出版物：無料パンフレット

展 示：利根川の水運(本文掲載)

◎出島村郷土資料館

英 名：Dejima-mura Local Material Hall

住 所：〒300-02 新治郡出島村大字坂1029

電 話：0298-96-0017

交 通：常磐線土浦駅より関東鉄道バス牛渡經由田伏行き歩崎観音下車，徒歩5分
 所 属：出島村
 開館年月：1987年4月4日
 入館時間：9：00～16：30
 休 館 日：月曜日(祝日の場合は翌日)，12月28日～1月1日
 入 館 料：大人200円，小中学生100円
 写真撮影：不可
 出 版 物：無料パンフレット
 展 示：帆引き舟模型(本文掲載)

〈栃木県〉

○小川町郷土館

英 名：Ogawa-Machi Local Museum
 住 所：〒324-05 那須郡小川町大字小川2524-1
 電 話：0287-96-2322
 交 通：烏山駅下車国鉄バス小川辻町下車
 所 属：小川町
 開館年月：1971年10月
 入館時間：9：00～16：00
 休 館 日：土，日曜日，祝日，年末年始
 入 館 料：無料
 写真撮影：—————
 出 版 物：—————
 展 示：漁業用具

○小山市立博物館

英 名：Oyama City Museum
 住 所：〒329-02 小山市乙女1-31-7
 電 話：0285-45-5331
 交 通：東北本線間々田駅西口下車徒歩8分
 所 属：小山市
 開館年月：1983年3月13日
 入館時間：9：00～17：00(入館は16：30まで)
 休 館 日：月曜日，祝日(5月5日，11月3日は開館)，12月28日～1月4日，館内整理日，特別整理日
 入 館 料：無料
 写真撮影：—————
 出 版 物：—————
 展 示：河岸と河川交通

○栃木県立博物館

英 名：Tochigi Prefectural Museum

住 所：〒320 宇都宮市陸町2-2

電 話：0286-34-1311(代)

交 通：国鉄宇都宮駅より関東バス市内線 No. 37 桜通り経由鶴田駅行きまたは宇都宮高校行きで中央公園
博物館前下車

所 属：栃木県

開館年月：1982年10月23日

入館時間：9：30～17：00

休 館 日：月曜日，祝日の翌日(ただし土，日を除く)，12月28日～1月4日，臨時休館日

入 館 料：大人200円，高校大学生100円，小中学生50円

写真撮影：—————

出 版 物：—————

展 示：下野の街道と舟運

○藤岡町歴史民俗資料館

英 名：Fujioka Historical Folk Material Museum

住 所：〒349-13 下都賀郡藤岡町大字藤岡812

電 話：0282-62-4569

交 通：東武鉄道藤岡駅下車，徒歩20分

所 属：藤岡町

開館年月：—————

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：月曜日，祝日

入 館 料：無料

写真撮影：—————

出 版 物：—————

展 示：高瀬舟など河岸関係歴史資料

〈群馬県〉

〈埼玉県〉

○上福岡市立歴史民俗資料館

英 名：Kamifukuoka City Folk Historical Material Museum

住 所：〒356 上福岡市長宮1-2-11

電 話：0492-61-6065

交 通：東武東上線上福岡駅より西武バス第一小学校前下車

所 属：上福岡市

開館年月：1983年11月

入館時間：9：00～16：30(土曜日は12：00まで)

休館日：月曜日、(祝日のときは翌日も)、毎月末日、祝日(11月3日を除く)、12月28日～1月4日

入館料：無料

写真撮影：—————

出版物：—————

展 示：荷船の模型、船大工道具

○埼玉県立博物館

英 名：Saitama Prefectural Museum

住 所：〒330 大宮市高鼻町4-219

電 話：048-641-0890

交 通：京浜東北線大宮駅より東武野田線で大宮公園駅下車徒歩5分

所 属：埼玉県

開館年月：1971年11月

入館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

休館日：月曜日、第4金曜日(祝日は除く)、祝日の翌日(日曜日は除く)、12月26日～1月5日

入館料：大人200円、学生100円

写真撮影：不可

出 版 物：しおり

展 示：川船模型

〈千葉県〉

○浦安市郷土資料館

英 名：Urayasu Folk Museum

住 所：〒279 浦安市猫実2-12-7

電 話：047-354-1352

交 通：地下鉄東西線浦安駅下車徒歩10分

所 属：浦安市

開館年月：1980年6月

入館時間：9：00～16：30

休館日：月曜日、祝日、12月28日～1月5日

入館料：無料

写真撮影：—————

出 版 物：—————

展 示：べか舟

○御宿町歴史民俗資料館

英 名：Onjuku-Machi Museum of History and Folklore

住 所：〒299-51 夷隅郡御宿町久保2200

電 話：0470-68-4311

交 通：国鉄外房線御宿駅下車徒歩2分

所 属：御宿町
開館年月：1975年5月
入館時間：9：00～17：00
休 館 日：月曜日，祝日（月曜日の場合は翌日），年末年始
入 館 料：無料
写真撮影：—————
出 版 物：—————
展 示：漁具関係（いかり，羅針盤）

◎鴨川市郷土資料館

英 名：Kamogawa City Local Museum
住 所：〒296 鴨川市横渚1401-6
電 話：04709-3-3800
交 通：国鉄安房鴨川駅西口下車，徒歩10分
所 属：鴨川市
開館年月：—————
入館時間：9：00～16：00
休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日も），祝日，年末年始
入 館 料：無料
写真撮影：可
出 版 物：—————
展 示：小型雑漁船など（本文掲載）

◎九十九里町いわし博物館

英 名：Kujukuri Town Museum of Sardain
住 所：〒283-01 山武郡九十九里町片貝2915
電 話：047576-4117
交 通：東金線東金駅よりバス片貝行き，本須賀行き九十九里町役場前下車
所 属：九十九里町
開館年月：1982年11月6日
入館時間：8：30～16：30
休 館 日：月曜日，祝日，土曜日午後，年末年始
入 館 料：無料
写真撮影：—————
出 版 物：—————
展 示：船大工道具

◎黒汐資料館

英 名：Japan Current Museum
住 所：〒299-52 勝浦市串浜春日台

電 話：04707-3-1234
交 通：外房線勝浦駅下車，徒歩10分
所 属：旅館「臨海荘」
開館年月：1974年10月
入館時間：10：30～15：00
休 館 日：無休
入 館 料：100円(解説書代として)
写真撮影：可
出 版 物：—————
展 示：本文掲載

◎国立歴史民俗博物館

英 名：National Museum of Japanese History
住 所：〒285 佐倉市城内町117
電 話：043-486-0123(代表)
交 通：京成佐倉駅下車，徒歩15分
所 属：国立
開館年月：1981年4月
入館時間：9：30～16：30(入館は16：00まで)
休 館 日：月曜日(日曜日または月曜日が祝日のときは火曜日)，12月27日～1月4日
入 館 料：大人350円，高校大学生230円，小中学生100円
写真撮影：可
出 版 物：無料パンフレット，有料ガイドマップ
展 示：丸木舟，御朱印船模型，北前船模型，かつお船

◎市立市川歴史博物館

英 名：Municipal Museum of History in Ichikawa
住 所：〒272 市川市北国分町2912
電 話：0473-73-6351
交 通：総武線市川駅より京成バス国分経由松戸行き，または聖徳学園行き博物館入口下車，徒歩10分，北
総開発鉄道北国分下車，徒歩8分
所 属：市川市
開館年月：—————
入館時間：9：00～16：30
休 館 日：月曜日，祝日，年末年始
入 館 料：無料
写真撮影：可
出 版 物：無料パンフレット
展 示：荷足船模型，伝馬船模型

◎千葉県立安房博物館

英 名：Awa Museum of Chiba Prefecture

住 所：〒294 館山市館山1564-1

電 話：0470-22-8608

交 通：内房線館山駅下車，徒歩15分

所 属：千葉県

開館年月：1973年11月23日

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：月曜日(祝日のときは翌日)，12月26日～1月4日

入 館 料：無料

写真撮影：無断撮影禁止

出 版 物：見学のしおり(無料パンフレット)

展 示：千石船のいかり，サバ船模型

◎千葉県立大利根博物館

英 名：Chiba Prefectural Otone Museum

住 所：〒287 千葉県佐原市佐原ハの4500

電 話：0478-56-0101

F A X：0478-56-1456

交 通：国鉄成田線佐原駅から日本水郷観光バス与田浦経由潮来行き

「水生植物園入口」下車約600M

国鉄鹿島線十二橋駅から約3 km，潮来駅から約3.5km

所 属：千葉県

開館年月：1979年(昭和54年)11月

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：月曜日(祝日の場合は翌日)，12月26日～1月4日

入 館 料：無料(特別展開催中は有料)

写真撮影：可

出 版 物：千葉県立大利根博物館(パンフレット)

千葉県立大利根博物館常設展示案内

展 示：丸木舟(長さ約5 m，幅約50cm，1968年八日市場市大寺出土)

利根川高瀬舟(約1/5模型)

通運丸(1/25模型)，ポンポン船(1/17模型)，湯船(1/5模型)(本文掲載)

調 査 日：1985年9月15日(月)，1991年9月16日(月)

◎銚子市青少年文化会館

英 名：—————

住 所：〒288 銚子市前宿町1046

電 話：0479-22-3315

交 通：総武本線銚子駅よりバス長崎行で気象台下下車，徒歩23分

所 属：銚子市

開館年月：1971年9月

入館時間：9：00～17：00

休 館 日：月曜日，祝日(子供の日と文化の日は開館)

入 館 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：—————

展 示：二丁櫓の和船，高瀬舟模型(1/20)，美加保丸船底包板用真鍮板(本文掲載)

調 査 日：1993年3月13日(土)

◎流山市立博物館

英 名：Nagareyama Municipal Museum

住 所：〒270-01 流山市加1225番地の6

電 話：0471-59-3434

交 通：総武流山電鉄流山駅下車，徒歩5分

所 属：流山市

開館年月：1978年6月1日流山市郷土資料館として開館，1984年4月1日現名に改称

入館時間：9：30～16：50

休 館 日：月曜日，祝日，毎月末日，12月27日～1月5日

入 館 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：無料パンフレット

展 示：高瀬舟模型(本文掲載)

◎野田市郷土博物館

英 名：Noda City Museum

住 所：〒278 野田市野田370

電 話：0471-24-6851

交 通：東武野田線野田市駅または愛宕駅下車，徒歩7分

所 属：野田市

開館年月：1959年4月

入館時間：9：00～16：00

休 館 日：月曜日，祝日，12月28日～1月4日

入 館 料：無料

写真撮影：可

出 版 物：無料パンフレット

展 示：高瀬舟模型

◎松戸市立博物館

英 名：Matsudo City Museum

住 所：〒270 松戸市千駄堀671
電 話：0473-84-8181
交 通：新京成電鉄八柱駅または国鉄武蔵野線新八柱駅下車，徒歩15分
所 属：松戸市
開館年月：1993年4月29日
入館時間：9：30～17：00(入館は16：30まで)
休 館 日：月曜日(祝日のときは翌日)，第4金曜日，12月28日～1月4日
入 館 料：大人300円，高校大学生150円，小中学生100円
写真撮影：不可
出 版 物：無料パンフレット
展 示：丸木舟

〈東京都〉

◎江戸川区郷土資料室

英 名：Edogawa-ku Local Museum
住 所：〒132 江戸川区松島1-38-1 グリーンパレス内3階
電 話：03-3653-5151 内331
交 通：総武線新小岩駅南口より都営バス江戸川区役所下車，徒歩3分
所 属：江戸川区
開館年月：1965年12月
入館時間：9：00～16：30
休 館 日：祝日，12月28日～1月4日
入 館 料：無料
写真撮影：可
出 版 物：—————
展 示：模型船

◎東京都江戸東京博物館

英 名：Edo-Tokyo Museum
住 所：〒130 墨田区横網1-4-1
電 話：03-3626-9974
交 通：両国駅下車徒歩3分
所 属：東京都
開館年月：1993年3月28日
入館時間：10：00～18：00
休 館 日：月曜日(祝日のときは翌日)，12月28日～1月4日
入 館 料：大人500円，小・中・高生250円
写真撮影：可(ノーフラッシュにて)
出 版 物：ご案内(無料パンフレット)
展 示：模型船(和船)

◎大島町郷土資料館

英 名：—————

住 所：〒100-01 大島町元町字地の岡

電 話：04992-2-3870

交 通：自然休養村内

所 属：大島町

開館年月：—————

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：水曜日

入 館 料：大人200円，小学生100円

写真撮影：可

出 版 物：無料パンフレット

展 示：○菊丸模型

○伝馬船(船と船，船と陸地の間を人や荷物をのせて運ぶ小さな舟，櫓や櫂でこぐ。)

◎大田区立郷土博物館

英 名：The Folk Museum of Ota City

住 所：〒143 大田区南馬込5-11-13

電 話：03-3777-1070

交 通：京浜東北線大森駅山王口より東急バス荏原町駅入口行で万福寺下車徒歩2分

所 属：大田区

開館年月：1979年11月

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：月曜日(祝日のときはその前日も休み)，祝日，年末年始，特別整理期間(2月中に1週間以内)

入 館 料：無料

写真撮影：—————

出 版 物：—————

展 示：のり船

◎船の科学館

英 名：Museum of Maritime Science

住 所：〒135 品川区東八潮3-1

電 話：03-3528-1111

交 通：国鉄新橋駅からゆりかもめにて船の科学館前下車

所 属：財団法人日本海事科学振興財団

開館年月：1974年7月20日

入館時間：10：00～17：00

休 館 日：12月28日～1月1日

入 館 料：大人500円，中人400円，小人300円

写真撮影：可

出版物：パンフレット

展示：本文掲載

○交通博物館

英名：Transportation Museum

住所：〒101 千代田区神田須田町1-25

電話：03-3251-8481

交通：国鉄・地下鉄秋葉原駅，地下鉄淡路町駅，新御茶ノ水駅，小川町駅下車 徒歩5分

所属：財団法人交通文化振興財団

開館年月：明治44年5月，大正10年10月14日鉄道博物館を開館，昭和11年4月現在の場所へ移転，1948年(昭和23年)9月交通博物館と改称

入館時間：9:30~17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(祝日，振替休日のときは翌火曜日休館，10月1日，10月14日，3月26日~4月6日，8月は開館)，12月29日~1月3日

入館料：大人300円，小人150円

写真撮影：可

出版物：無料パンフレット

展示：船舶部門(金剛丸，津軽丸，大佐丸模型，壱伎丸号鐘，水中翼船，ふじ，しらせ，ホバークラフト模型，カヌー，皮船，丸木舟，天地丸，屋根舟，クラーモント，報国丸，浪速丸，剛邦丸模型)

○新島郷土館

英名：Niijima Local Museum

住所：〒100-04 新島村本村3-7-11

電話：04992-5-0209

交通：黒根港から徒歩30分

所属：個人

開館年月：1965年8月16日

入館時間：9:00~16:00

休館日：1月1日

入館料：-

写真撮影：可

出版物：無料パンフレット

展示：漁船模型

○八丈島歴史民俗資料館

英名：Hachijojima Historical Folk Material Hall

住所：〒100-14 八丈島八丈町大賀郷1186

電話：04996-2-3105

交通：八丈港よりバスで15分

所属：八丈町

開館年月：1975年5月1日
 入館時間：9：00～16：00
 休館日：無休
 入館料：大人300円，小人150円
 写真撮影：可
 出版物：無料パンフレット
 展示：艦，櫂

○国立科学博物館

英名：National Science Museum
 住所：〒100 台東区上野公園7-20
 電話：03-3822-0111(代)
 交通：上野駅公園口下車徒歩5分
 所属：日本(国立)
 開館年月：明治10年8月，1931(昭和6年)現在地に移転，1949年(昭和24年)国立科学博物館となる
 入館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)
 休館日：月曜日(日曜日または月曜日が休日のときは火曜日)，年末年始，消毒休館日(春，秋)
 入館料：大人400円
 写真撮影：可
 出版物：かはくガイド(無料)
 展示：○大冶丸(だいやまる)模型

総トン数2793T，馬力2348HP，船型：三島型船

大冶丸は1902年(明治35年)に官営八幡製鉄所で使用する鉄鉱石を中国(清)の大冶鉱山から運搬するためにわが国で最初の鉱石専用運搬船として建造されたものである。

大冶丸のエンジンはわが国で初めて四連成汽機とよばれる蒸気機関を備えたものであった。大冶丸の姉妹船として若松丸があった。

この模型はドック入りしている状態を示している。

四連成汽機とは大きさの違う4つのシリンダーをもち，小シリンダーで使った蒸気を捨てずに順次大きい方へ送りエネルギーの節約を考えた機関。

訪問日：1994年5月7日(土曜日)

○東京商船大学百周年記念資料館

英名：The Centennial Museum of Tokyo University of Mercantile Marine
 住所：〒135-8533 江東区越中島2-1-6 東京商船大学内
 電話：03-5245-6300
 交通：京葉線越中島下車徒歩3分
 所属：東京商船大学
 開館年月：1976年
 入館時間：10：00～15：00(火，木，第1，第3土曜日，6月第1週の土，日，7月20日(海の日))
 休館日：上記以外の日

入館料：無料
写真撮影：可
出版物：無料パンフレット
展示：模型船

◎明治丸

英名：Meijimaru
住所：〒135-8533 江東区越中島2-1-6 東京商船大学内
電話：03-5245-7300
交通：京葉線越中島駅下車徒歩3分，地下鉄東西線門前仲町下車徒歩10分，地下鉄有楽町線月島駅下車徒歩10分
所属：東京商船大学
開館年月：1989年5月16日
入館時間：10：00～15：00(火，木，第1，3土曜日，6月第1週の土，日，7月20日(海の日))
休館日：上記以外の日
入館料：大人280円，高校生以下170円
写真撮影：可
出版物：無料パンフレット
展示：本文掲載

◎親水館

英名：—————
住所：〒135 江東区木場3-9地先
電話：03-5245-4204
交通：地下鉄東西線木場駅下車徒歩8分
所属：江東区
開館年月：—————
入館時間：9：30～16：30
休館日：月曜日(祝日のときは翌日)
入館料：無料
写真撮影：可
出版物：親水館のしおり(無料)
展示：川船模型，江東区水上バス模型，川船の「かじ」，「ろ」

◎江東区深川江戸資料館

英名：Koto City Fukagawa Edo Museum
住所：〒135 江東区白河1-3-28
電話：03-3630-8625
交通：地下鉄門前仲町駅下車徒歩15分
所属：江東区

開館年月：1986年11月16日
 入館時間：10：00～17：00
 休館日：12月28日～1月4日
 入館料：大人300円，小・中生50円
 写真撮影：可
 出版物：深川江戸資料館(無料パンフレット)
 展示：ちょき舟

◎品川区品川歴史館

英名：Shinagawa Historical Museum
 住所：〒140 品川区大井6-11-1
 電話：03-777-4060
 交通：国電大井町南口下車徒歩15分
 所属：品川区
 開館年月：—————
 入館時間：9：00～17：00(入館は16：30まで)
 休館日：月曜日，祝日(日曜日のときは開館)，年末年始
 入館料：大人100円，小・中学生50円
 写真撮影：常設展示のみ可(三脚，フラッシュ不可)
 出版物：館案内パンフレット
 展示：桁船1/6模型

◎東京水産大学水産資料館

英名：Museum of Frishery Science, Tokyo University of Fisheries
 住所：〒108 港区港南4-5-7
 電話：03-3471-1251
 交通：品川駅東口(港南口)より徒歩15分
 所属：東京水産大学
 開館年月：1971年(昭和46年)9月
 入館時間：9：00～17：00(入館は16：30まで)
 休館日：土，日，祝日，12月28日～1月4日
 入館料：無料
 写真撮影：可
 出版物：東京水産大学水産資料館案内
 展示：本文掲載

〈神奈川県〉

◎氷川丸

英名：Hikawamaru
 住所：〒231 横浜市中区山下町山下公園地先

電 話：045-641-4361
交 通：京浜東北線，東急東横線桜木町駅よりバス26系統「山下公園前」下車，京浜東北線石川町下車徒歩
15分
所 属：氷川丸マリンタワー株式会社
開館年月：1961年6月2日
入館時間：9：30～20：00(平日)，9：00～21：30(休日)
休 館 日：無休
入 館 料：大人700円，小人300円，幼児250円
写 真 撮 影：可
出 版 物：無料パンフレット
展 示：本文掲載

◎三菱みなとみらい博物館

英 名：Mitsubishi Minatomirai Industrial Museum
住 所：〒220 横浜市西区みなとみらい3丁目3番1号 三菱重工横浜ビル
電 話：045-224-9031
F A X：045-224-9902
交 通：国電根岸線，横浜市営地下鉄，東急東横線桜木町駅より徒歩8分
三菱重工横浜ビル有料地下駐車場あり
所 属：三菱重工業株式会社
開館年月：1994年6月1日
入館時間：10：00～17：30(入館は16：30まで)
休 館 日：木曜日(祝日の場合は金曜日)，国民の祝日の翌日，年末年始及び特定休館日
入 館 料：大人500円，中学生高校生300円，小学生200円
写 真 撮 影：可
出 版 物：三菱みなとみらい技術館(無料パンフレット)
展 示：《入口》
○「クリスタルハーモニー」模型
《海洋ゾーン》
○「しんかい6500」模型(1/2)
○西村式豆潜水艇第2号模型(1/20)
○「しんかい2000」模型(1/20)
○半潜水型海底油田掘削装置「第3白竜」模型(1/100)
○「ヤマトー1」模型(1/50)
○「もぐりん」模型
《船と飛行機の歴史コーナー》
○「天洋丸」模型(1/200)
○「鎌倉丸」模型(1/200)
○タンカー「日章丸」模型(1/200)
○客船「あるぜんちな丸」模型(1/200)

- 一等潜水艦「伊-19」模型(1/200)
- 戦艦「武蔵」模型(1/200)
- 航空母艦「隼鷹」模型(1/200)
- LPGタンカー「ブリジストン丸」模型(1/200)
- 高速貨物船「山梨丸」模型(1/200)
- 対空ミサイル護衛艦「あまつかぜ」模型(1/200)
- コンテナ船「箱根丸」模型(1/200)
- タンカー「CHEVRON NORTH AMERICA」模型(1/200)
- ボール進水用のボール(1947年)
- 現図用具
- 製図用バツテン押さえ

訪問日：1994年7月25日(月曜日)

◎横浜マリタイムミュージアム

英名：Yokohama Maritime Museum

住所：〒220 横浜市西区みなとみらい2-1-1

電話：045-221-0280

交通：桜木町駅下車徒歩10分

所属：横浜市

開館年月：1989年(平成元年)3月25日

入館時間：10：00～17：00(7・8月は18：30まで, 11・12月は16：30まで)

休館日：月曜日(祝日のときは開館), 祝日の翌日(土, 日, 休日のときは開館), 12月29日～1月1日

入館料：大人600円, 小・中学生300円

写真撮影：不可

出版物：横浜マリタイムミュージアム(無料パンフレット)

展示：模型船

◎横浜開港資料館

英名：Yokohama Archives of History

住所：〒231 横浜市中区日本大通3

電話：045-201-2100

交通：桜木町駅下車

所属：財団

開館年月：1981年6月2日

入館時間：9：30～17：00

休館日：月曜日, 祝日の翌日, 年末年始

入館料：大人200円, 小人100円

写真撮影：不可

出版物：横浜開港資料館(無料パンフレット)

展示：黒船模型

○平塚市博物館

英 名：Hiratsuka City Museum
住 所：〒254 平塚市浅間町12-41
電 話：0463-33-5111～3
交 通：平塚駅下車 徒歩15分
所 属：平塚市
開館年月：1976年5月1日
入館時間：9：00～16：50
休 館 日：月曜日，祝日，毎月末日，年末年始
入 館 料：無料
写真撮影：—————
出 版 物：—————
展 示：相模川の舟

◎神奈川県立歴史博物館

英 名：Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History
住 所：〒231 横浜市中区南仲通5-60
電 話：045-201-0926
交 通：国鉄桜木町または関内駅下車徒歩5分
所 属：神奈川県
開館年月：1967年(昭和42年)3月県立博物館として開館，1995年(平成7年)3月18日神奈川県立歴史博物館として再開館
入館時間：9：30～17：00
休 館 日：月曜日，祝日の翌日(土・日曜日は開館)
入 館 料：大人300円，学生200円
写真撮影：不可
出 版 物：パンフレット
展 示：黒船模型

◎観音崎自然博物館

英 名：Kannonzaki Nature Museum
住 所：〒239 横須賀市鴨居4-1120
電 話：0468-41-1533
交 通：京浜急行馬堀海岸駅より観音崎行バス終点下車徒歩10分
所 属：社団法人観音崎自然博物館振興会
開館年月：1953年6月観音崎観光株式会社により創設，1989年4月29日新築移転開館
入館時間：9：00～17：00
休 館 日：月曜日(7・8月を除く)，12月26日～31日
入 館 料：大人300円，高校生300円，小・中学生200円，幼稚園児100円
写真撮影：可

出版物：観音崎自然博物館のしおり(無料パンフレット)

展示：仏国貨物船“フィリップ”船首1/10模型，丸木舟，プロペラの木型

○横須賀市自然博物館

英名：Yokosuka City Museum

住所：〒238 横須賀市深田台95

電話：0468-24-3688

交通：京浜急行横須賀中央駅下車徒歩10分

所属：横須賀市

開館年月：1953年7月，1970年10月新築，移転，1983年6月人文博物館を建設

入館時間：9：00～17：00

休館日：月曜日，祝日の翌日，毎月末日，12月28日～1月4日

入館料：無料

写真撮影：—————

出版物：—————

展示：三浦半島の魚撈関係用具(木造漁船4隻を含む)

○記念艦「三笠」

英名：Memorial Ship Mikasa

住所：〒238 横須賀市稲岡町無番地

電話：0468-22-5408

交通：京浜急行横須賀中央下車徒歩15分，国鉄横須賀駅よりバス大滝町(さいか屋前)下車，徒歩8分

所属：三笠保存会

開館年月：1961年(昭和36年)5月27日

入館時間：9：00～17：30(4月～9月)，9：00～17：00(3月・10月)，9：00～16：30(11月～2月)

休館日：12月28日～31日

入館料：一般400円，高校生200円，小・中学生150円

写真撮影：可

出版物：パンフレット

展示：—————

4. 結言

本報告では関東地方における14施設についての現地調査と49施設についての文献調査結果を示した。文献調査結果を県別にみると茨城県6施設，栃木県4施設，群馬県0施設，埼玉県2施設，千葉県13施設，東京都15施設，神奈川県9施設となっている。これによると当然のことではあるが海に面していない栃木県，群馬県，埼玉県では船についての資料があまりみられない。しかし詳細にすれば河川や湖沼において使用された船などの資料が発見できるかもしれないので，今後もさらに調査をする必要がある。

参考文献

- 1) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その1) —西ドイツの博物館—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第40号, pp.83-99(1989年12月)
- 2) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その2) —西ドイツ(続)・オランダ・ベルギー—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第41号, pp.89-114(1990年12月)
- 3) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その3) —ノルウェー・スウェーデン・デンマーク—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第42号, pp.73-91(1991年12月)
- 4) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その4) —イギリス・フランス・イタリア・スロベニア—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第43号, pp.87-106(1992年12月)
- 5) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その5) —アメリカ—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第44号, pp.41-67(1993年12月)
- 6) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その6) —中国—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第45号, pp.13-19(1995年3月)
- 7) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について(その7) —オーストラリア・ニュージーランド—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第46号, pp.1-26(1996年2月)
- 8) 庄司邦昭：ヨーロッパ船の博物館ガイド, 大空社(1998年6月)
- 9) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について(その1) —北海道—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第47号, pp.15-31(1997年2月)
- 10) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について(その2) —東北地方—, 東京商船大学研究報告(人文科学)第48号, pp.41-60(1998年1月)
- 11) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅰ —考古・歴史・民俗—, ニューサイエンス社(1984年1月)
- 12) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅱ —教育委員会・埋文センター・研究会一覧—, ニューサイエンス社(1984年1月)
- 13) 全国美術館会議編：全国美術館ガイド, 美術出版社(1992年1月10日)
- 14) 樋口秀雄・加藤有次監修：父と子の博物館, 富士書店(1976年7月)
- 15) 加藤有次監修：ユニーク博物館, 毎日新聞社(1985年5月)
- 16) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧, 第1巻, ぎょうせい(1995年6月)